



町章

おかげさまでもうすぐ

130th
(平成31年)



町の花
「ムラサキツツジ」



町の木
「カラマツ」



町の鳥
「ヤマドリ」

2016 長野原町 町勢要覧 概要版

- 発行日／平成 28 年 4 月
 - 発行／長野原町
 - 編集／企画政策課
 - 制作／地域おこし協力隊
- 〒 377-1392
群馬県吾妻郡長野原町大字長野原 66-3
TEL 0279-82-2244(代)
FAX 0279-82-3115
2016 長野原町 町勢要覧 資料編
<http://www1.town.naganohara.gunma.jp>

癒しとくつろぎの長野原町



長野原町長
はぎわら 萩原 睦男

長野原町民憲章

- 私たちはお互いに力を合わせ、
住みよい郷土をつくりましょう
 - 私たちは花や鳥を愛し、
恵まれた自然を守りましょう
 - 私たちは健康で勤労を尊び、
豊かな家庭を築きましょう
 - 私たちは教養を高め、
香りが文化を守り育てましょう
 - 私たちは老人を敬い、
希望に満ちた青少年の育成につとめましょう
- 昭和54年10月18日 制定

目次

町長挨拶	02
長野原の構成地区	04
長野原の春夏秋冬	06
第五次総合計画	16
ハッ場ダム建設史	20
長野原町の取組み	22
長野原町の継承	24
長野原町の統計	26

本要覧は、長野原町を客観的に把握するために、長野原町の現状と今後をまとめた冊子です。
長野原町は群馬県の西北部に位置し、関越自動車道「渋川伊香保IC」、上信越自動車道「上田IC」、「碓氷軽井沢IC」からそれぞれ約一時間ほどの町です。
明治二十二年の町制施行以来、独立独歩を貫き、平成三十一年に一三〇周年を迎えます。豊かな自然と多くの観光資源に恵まれ、また全国的にも珍しい国道三起点もあり、交通の要衝としても発展を遂げてきております。

先人のたゆまぬ努力により育まれてきた歴史・文化を継承しながら、喫緊の課題でもあるハッ場ダム生活再建事業、地域経済の活性化、少子高齢化、人口減少対策に全力で取り組んでおります。

このような状況の中、長野原町では平成二十八年からの向こう十ヶ年の新しいまちづくり計画「第五次長野原町総合計画」の基本目標を実現するため、独自の地域産業振興施策（まち・ひと・しごと創生）を展開しながら、住民と行政が互いに協力し合うことのできる仕組みづくりを確立し、グローバル化した現代社会に対応できるまちづくりを目指してまいります。

先人が残した軌跡と総合計画の基本理念に基づき、町に関わるすべての人との一致団結を目指し、安心して暮らせる快適な環境づくりへ誠心誠意取り組みとともにその環境を活かした「おもてなし」の町になるよう、今後とも努力していく所存でございます。

本町勢要覧をご高覧の上、長野原町に対して認識を深めて頂き、親しみをもってご活用頂ければ幸いです。癒しとくつろぎの長野原町に、皆様どうぞお越しください。



< 長野原町役場前 >

位置 東経 138度38分15.3秒
北緯 36度33分 0.8秒
標高 623m

< 北軽井沢観光協会 >

位置 東経 138度35分22.0秒
北緯 36度27分59.0秒
標高 1094m

ALL NAGANOHARA

かわ ら はた
川原畑区



かわ ら ゆ
川原湯区



よこ かべ
横壁区



はやし
林区



なが の はら
長野原区



長野原を構成する 10地区

平成 27 年 3 月 31 日調べ

人口	5,918人
世帯数	2,439世帯
面積	133.85km ²

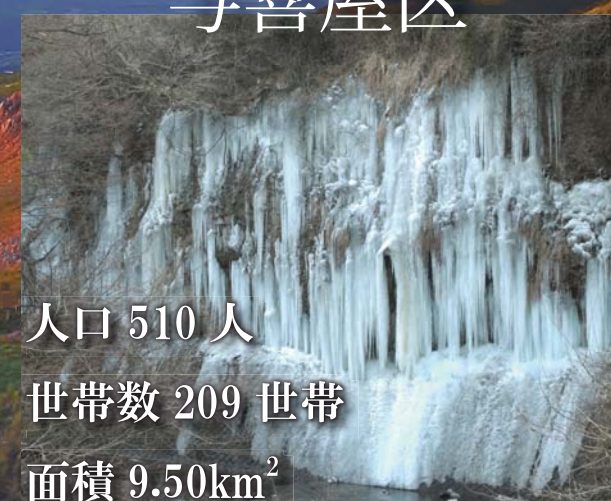
おお つ
大津区



は ね お
羽根尾区



よ き や
与喜屋区



おう くわ
応桑区



きた かる い ざわ
北軽井沢区



四季折々の変化を見せる雄大な自然
そんな自然が与える美しい景観と
調和する長野原町



最高気温 34℃



最低気温 -19℃

長野原町の四季



春

入学式

(4月上旬)

町内各地の幼稚園、小・中学校では入学式が行われます。新入生たちは、新しい場所への期待と不安で胸いっぱいですが、緊張しながらも、希望に満ち溢れた表情をしています。



ハート型芝桜
二軒屋地区

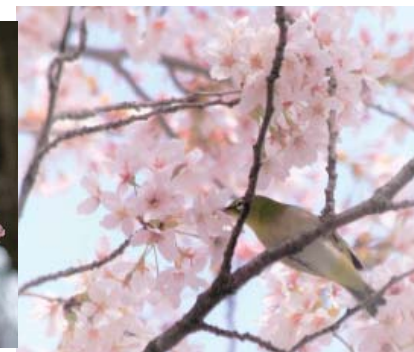


長野原諏訪神社祭り (4月25日)

毎年、長野原諏訪神社にて開催されます。長野原区内に御神輿が出る頃に諏訪神社の桜が見頃を迎えます。春祭りは町内各地で行われます。

与喜屋養蚕神社例大祭 (5月15日)

五穀豊穡を祈念し行われるお祭り。地元の住民が太々御神楽を奉納します。歴史的には与喜屋養蚕神社の神楽は明治25年頃から始まったとされています。





北軽井沢マラソン (6月下旬)

浅間山を眺めながら走るコースは圧巻です。外気温も 25℃前後でランナーにとっては走りやすい環境が強みです。コース上のエイドステーションでは、地元で採れた新鮮な高原野菜でランナーの皆様をおもてなししています。浅間高原の清々しい風の中を走り抜ける爽快感は、他のマラソン大会では味わえないものがあります。

北軽井沢高原まつり

(8月14日)

北軽井沢高原まつりの花火大会は夏最大のイベントです。北軽井沢は昔から別荘地として知られており、毎年多くの観光客や避暑客が集まってヒートアップしています。納涼踊りを始めとした様々な発表が行われ、祭りの締めくくりには、迫力満点の花火が高原の夜空に輝きます。昭和 39 年に第 1 回が開催され、平成 28 年に 54 回を迎えます。

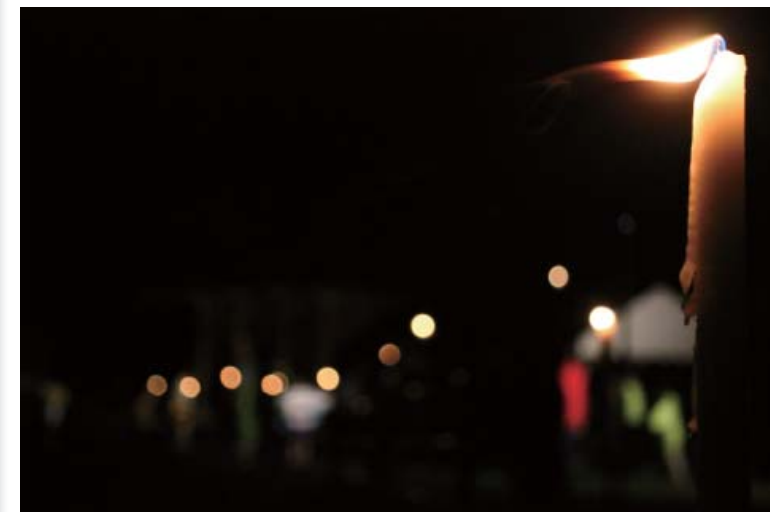


夏

百八灯

(8月16日)

長野原町の百八灯は江戸時代の後期から行われている奇祭の一つであり、無病息災や五穀豊穡を祈願するお祭りです。日没後、百八本のろうそくに火が灯ると、薄暗闇の中にろうそくの明かりが浮かび上がり、人間の持つ百八の煩惱を鎮めます。



だんご相撲

(8月28日)

だんご相撲の起源説話は、米の粉(団子)人形を作り参詣の子どもに投げさせ、それが後に子どもが相撲をとることへと発展し、今では子どもの成長を祈願する行事となっています。だんご相撲は安政 5 年頃から始まり、現在に至るまで 150 年余りの歴史があります。



運動会・体育祭 (8月下旬)
(9月中旬)

毎年、この時期になると幼保小中の幼児、児童、生徒が活気を見せ、町を盛り上げてくれます。運動会・体育祭は、子ども達が切磋琢磨し合い、信頼を深め、また、親が我が子の健やかな成長を実感できる日でもあります。

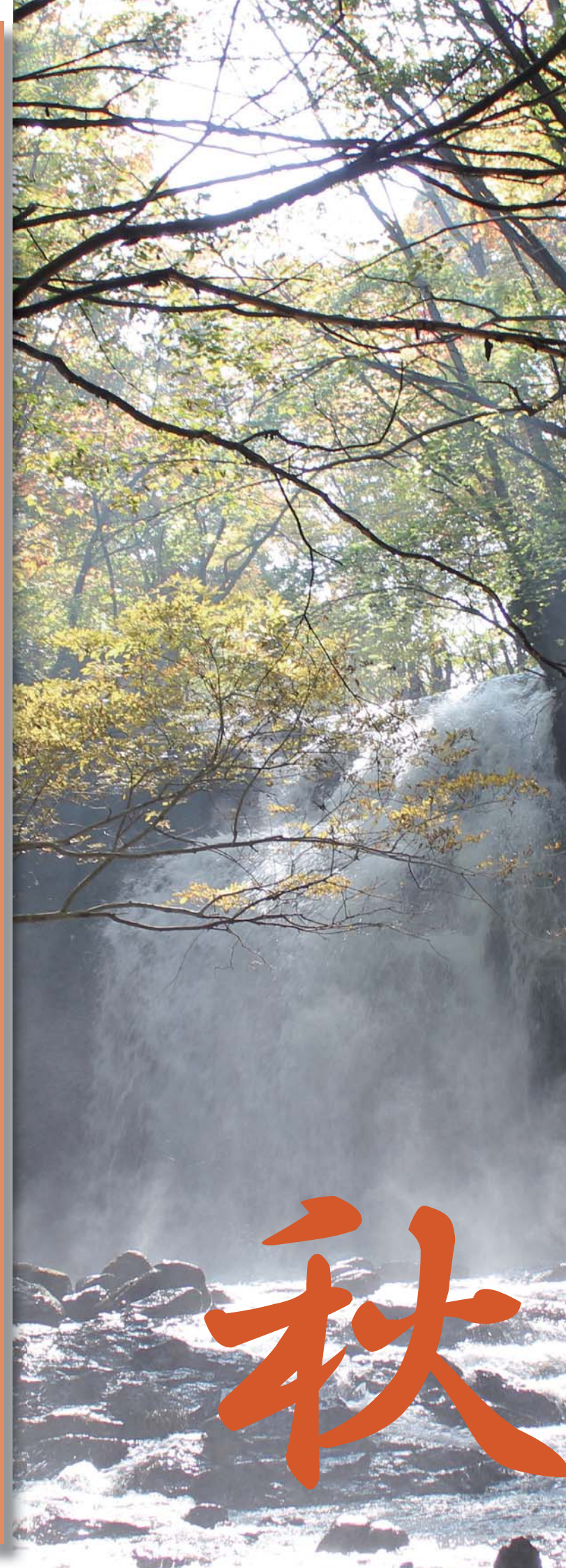


町民スポーツ大会 (10月上旬)

長野原町の町民スポーツ大会は、毎年、白熱した試合が繰り広げられます。スポーツは、互いの親睦を深めるだけでなく、人々の健康増進と体力向上を図るとともに、住民の生活の質を高めてくれます。昭和59年に第1回が開催され、平成28年で第32回を迎えます。

秋季点検 (10月中旬)

この点検は消防ポンプ車等の機械器具や装備の点検をするだけでなく、消防団員が日頃の訓練の成果を披露するとともに、町に密着して活動してきた消防団員を賞賛する日でもあります。



吾妻溪谷

「関東の耶馬溪」とも称され、四季折々に彩りを変え、訪れる人を魅了します。



文化祭 (11月3日)

「食・芸能・芸術」をテーマにした文化祭は、毎年、町内外から5000人を超える人が集まります。作品展示や芸能発表は老若男女問わず、町に活気をもたしてくれます。商工会や関係団体による模擬店など、盛りだくさんの展示販売も行われます。昭和43年に第1回が開催され、平成28年に第49回を迎えます。



浅間高原雪合戦大会 (2月上旬)

この大会は小学生・レディース部と一般の部に分かれて開催されます。1チーム7人で雪球を投げ合い勝敗を競います。群馬県内では唯一、日本雪合戦選手権の関東地区予選を兼ねた大会が長野原町で開催されております。平成12年に第1回が開催され、平成28年度には第16回目を迎えます。



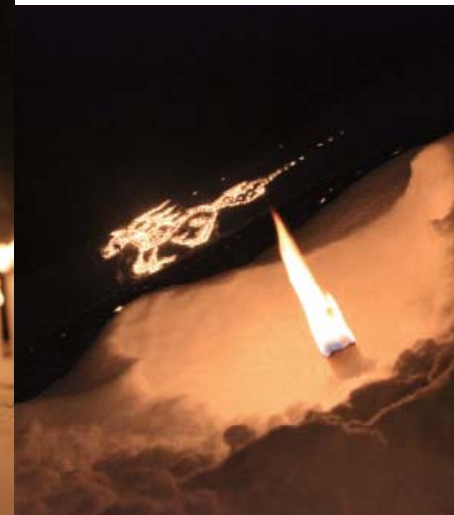
川原湯温泉湯かけ祭り (1月20日)

奇祭、裸祭りとしても有名な「湯かけ祭り」は、下帯姿で大寒の早朝から湯をかけあって、湯の神に感謝する伝統のある祭事です。見物客にも容赦なく、お湯が飛んできます。



北軽井沢炎のまつり (2月中旬)

炎の祭りは約4,000本のろうそくに火を灯し、幸福を祈願する行事です。大地のろうそくの炎と夜空に光る花火は、幻想的な長野原町を作り出してくれます。平成5年に第1回が開催され、平成28年度に24回目を迎えます。



01 しごとづくり

農林業と商工業が協力し、地元の豊かな自然と文化、農林産物、その他の地元資源を有効に組み合わせて事業の多角化および高度化を図り、地元ブランドの加工・販売を展開する六次産業化に取り組みます。また、広域的な観光連携を推進していくことで、町全体の魅力を高め、産業の活性化を目指します。

まちづくりはひとづくり 02

「自立と共生」を理念とする充実した学習環境の整備と人材を育成することに努めます。住民同士がコミュニケーションを図ることによって、町の歴史や文化を尊び、他者に思いやりを持ちながら、町の課題の解決に向けて積極的に取り組む人材を育てていくことを目指します。

魅力を活かしたまちづくり 03

魅力あるまちづくりを推進していくためには、日常生活に密接に関わる道路、公共施設などの適正な維持・管理と、安全性の確保が重要になります。また、自然環境の保全や動植物との共生をはかるため、ゴミ等の処理についても考慮していきます。

健やかな暮らしづくり 04

子どもの存在は、活気ある町を作ります。高齢者においても住み慣れた地域で自立した生活が送れるように、介護、生活支援等が切れ目なく提供される体制が求められています。町では子育てにおける保護者の不安、社会保障制度における高齢者の負担を和らげ、安心して暮らせるまちづくりを目指します。

明るく 活力あるまちへ

05 みんなが主役

地方分権改革の流れの中で、いわゆる平成の市町村合併等の選択肢がありましたが、長野原町は合併せずに現在に至っています。これからの地方自治体は地域住民が自らの判断と責任においてまちづくりを進めていくことが求められます。「オール長野原」の精神で住民が一体感を持ちながら、まちづくりに励みます。

06 安全・安心づくり

いざというときのために、浅間山の噴火対策をはじめ、水害や土砂災害、雪害、大地震等への災害予防対策を講じ、住民の生命と財産を守るよう努めます。また、交通事故対策として、防犯活動及び高齢者も含めた交通安全対策を関係機関と協力して取り組んでいます。

ハッ場ダムのまちづくり 07

平成31年度末のハッ場ダム完成を見据えて、様々な社会基盤を推進し、ダムができてよかったと思える生活再建対策を進めます。また、観光振興策・雇用確保も含めた地域づくりを継続的に進めていかなければなりません。

第五次長野原町総合計画

食農産業から支える地域づくりを



農業部門別販売金額

酪農	238,700 万円
露地野菜	161,630 万円
農作業請負収入※	4,860 万円
その他の作物	4,075 万円
果樹類	3,225 万円
雑穀・イモ類・豆	1,820 万円
肉用牛	850 万円
施設野菜	600 万円
工芸農作物	450 万円
稲作	195 万円

(総額) 418,275 万円

農林水産業「農林業センサス」H27 年度

※農作業の請負や農業加工を行う法人を含む

子育て支援



全国的に少子化が進む現代。長野原町としても例外ではありません。次世代の担い手でもある子どもたちに、安心して健やかに育てることの出来る環境づくりを目指し、子育て支援策を推進してまいります。

親が迎えに来るまで、安全な居場所を提供する事業、育児に困った場合に気軽に相談できる環境づくり、一体的な保育と幼児教育を提供する「いづも園」の設置など、長野原町の地域特性に沿った事業を進めてまいります。

基幹産業



長野原町の基幹産業は農業と観光産業です。

農業においては、左記の農業部門別販売金額に示す通り、酪農や露地野菜（高原野菜）等が主力です。地域創生の鍵は基幹産業の振興にあると言っても過言ではありません。

長野原町では、牛乳や高原野菜の他産地との差別化や地域ブランド化、六次産業化を進めると共に、後継者の育成等にも努めてまいります。

子供たちのパワーで町に活気を



初々しい姿から

大人は、
子供たちの
笑顔のために



凛とした姿へ

長野原高校 3 年 (H27 年度)

六次産業化で地域に潤いを

$$1 \times 2 \times 3 = 6$$

生産 加工 流通・販売 次産業化

地域の活性化
雇用の場の創出
地域の所得向上

六次産業化の支援

地域ブランドの創出



六次産業化とは、第一次産業（農林業）者の所得向上を実現するため、自ら食品加工（第二次産業）や流通販売（第三次産業）までに主体的に関わる経営形態のことです。

長野原町では、豊富な地域資源を有効活用し、地域の活性化や新たな地域ブランドの創出を目指します。

具体的には、加工施設の整備、新商品の開発、販路開拓など、意欲ある農林業者への支援と、観光産業との連携を推進します。

1980年代

＜移転後のよりよい暮らしを求めて＞

80

群馬県は長野原町と同議会に「生活再建案」「生活再建案の手引き」を提示 (S55)

85

長野原町と群馬県は生活再建案について包括的な合意をし、覚書を締結 (S60)

1990年代

＜生活再建に向けて歩みだす＞

90

建設省と群馬県は水没5地区の再建対策計画でもある地域居住計画を作成し、関係全世帯へ配布 (H2)

92

長野原町が基本協定及び、用地補償調査の協定を締結 (H4)

93

群馬県がハッ場ダム水源地域対策事務所を設置 (H5)

95

水源地域対策措置法に基づく水源地域整備計画を閣議決定 (H7)

2000年代

＜民主党マニフェストによる事業中止＞

01

「利根川水系ハッ場ダム建設事業の施行に伴う補償基準」調印 (H13)

05

「利根川水系ハッ場ダム建設事業の施行に伴う代替地分譲基準」調印 (H17)

09

前原国土交通大臣がハッ場ダム建設中止を表明 (H21)

2010年代

＜ダム構想から60年、完成の目処が立つ＞

10

付替国道145号の一部(長野原めがね橋～雁ヶ沢ランプ) 開通 (H22)

11

国道145号ハッ場バイパス全線開通 (H23)

前田国土交通大臣が長野原町にてダム建設継続を表明

13

太田国土交通大臣が本体関連工事の早期完成を目指すとの方針を表明 (H25)

14

ハッ場大橋(湖面1号橋) 開通 JR 吾妻線新線に切替え (H26)

15

ダム本体の工事開始 (H27)

2019年度 ハッ場ダム 完成予定

ハッ場ダム情報

■河川名

利根川水系吾妻川

■ダム位置

左岸 群馬県吾妻郡長野原町

大字川原畑字ハッ場

右岸 群馬県吾妻郡長野原町

大字川原湯字金花山

■建設の目的

洪水調節
流水の正常な機能の維持
新規都市用水の供給
発電

■ダム型式

重力式コンクリートダム

■堤体積

約 91 万 1,000m³

* 今後、堤体の設計精査により変わらう

■堤高

116.0m

■堤頂長

290.8m

■集水面積

711.4km²

■流域面積

1,356km²

■湛水面積

約 3.0km²

■総貯水容量

1 億 750 万 m³

■有効貯水容量

9,000 万 m³

■調査着手

1952 年

■完成予定

2019 年度

■事業者

国土交通省 関東地方整備局

■水没面積

全面積 301.7ha

内訳 宅地 22.7 ha 田畑 55.9ha

山林 131.1 ha 道路等 92.0ha

ハッ場ダム建設史

1940年代

＜被害の教訓から建設計画へ＞

47

カスリーン台風が関東地方を直撃 (S22)

1950年代

＜吾妻川が強酸性の水質のため、ダム計画は一時中断＞

52

昭和24年策定の利根川改修改定計画の一環として国が調査に着手 (S27)

1960年代

＜進展する事業計画、住民は猛反発＞

67

現地にハッ場ダム調査出張所を開設 (S42)

1970年代

＜続く反対運動＞

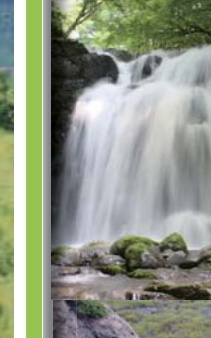
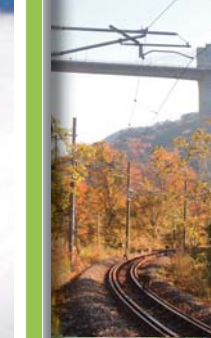
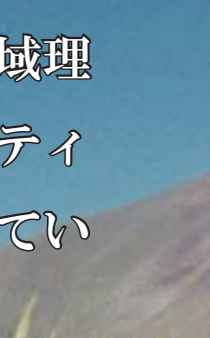
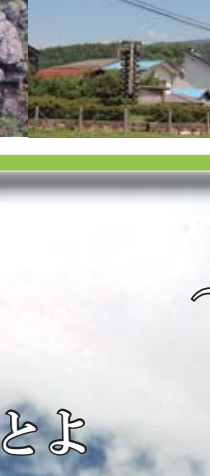
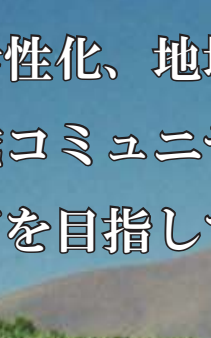
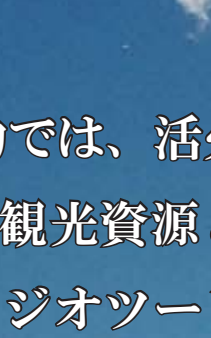
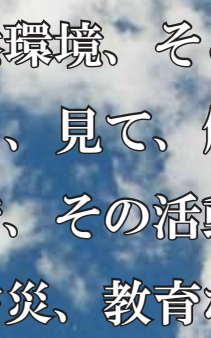
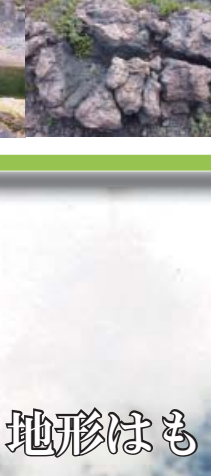
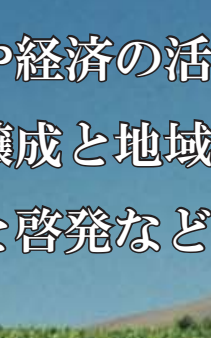
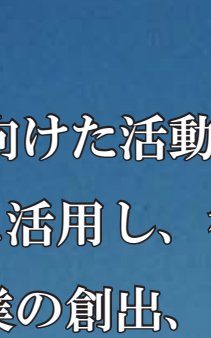
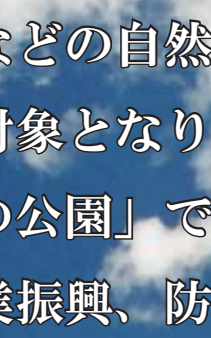
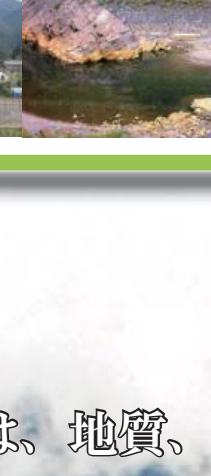
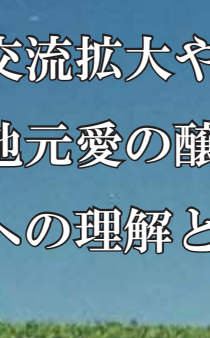
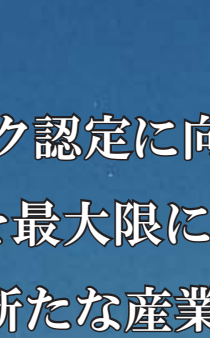
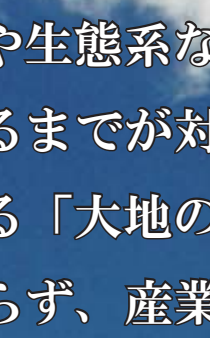
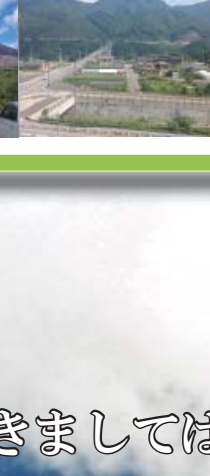
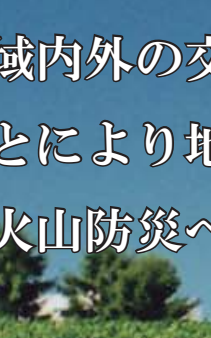
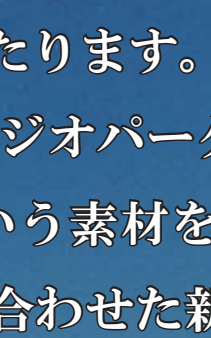
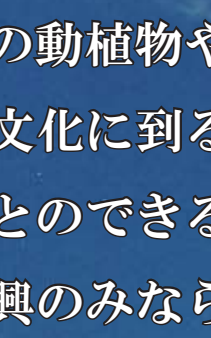
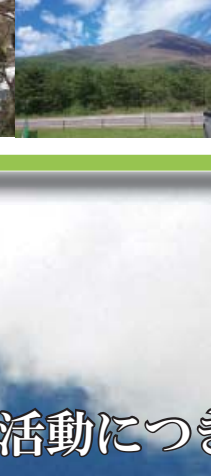
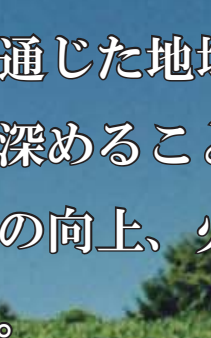
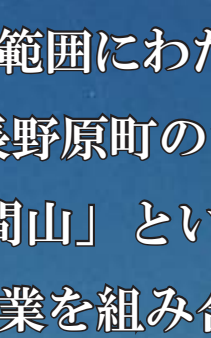
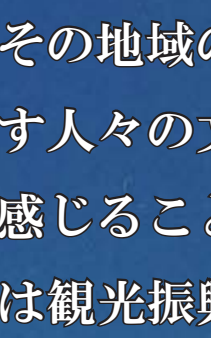
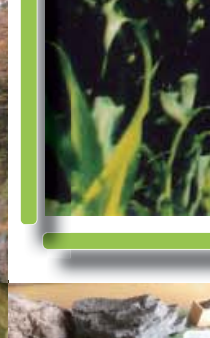
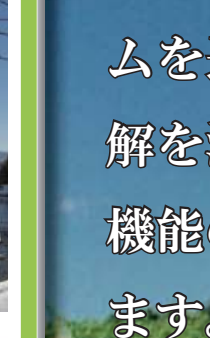
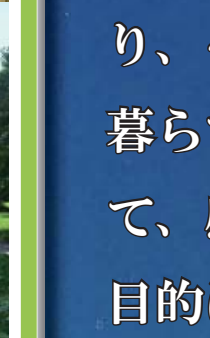
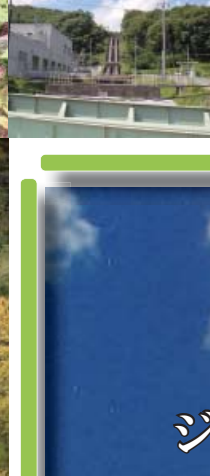
73

水源地域対策特別措置法が成立 (S48)

～浅間山北麓ジオパーク認定に向けて～

ジオパーク活動につきましては、地質、地形はもとより、その地域の動植物や生態系などの自然環境、そこに暮らす人々の文化に到るまでが対象となり、見て、触れて、感じることでできる「大地の公園」で、その活動の目的は観光振興のみならず、産業振興、防災、教育などの広範囲にわたります。

長野原町のジオパーク認定に向けた活動では、活火山「浅間山」という素材を最大限に活用し、観光資源と地場産業を組み合わせた新たな産業の創出、ジオツーリズムを通じた地域内外の交流拡大や経済の活性化、地域理解を深めることにより地元愛の醸成と地域コミュニティ機能の向上、火山防災への理解と啓発などを目指しています。



After knowing experience in the past,

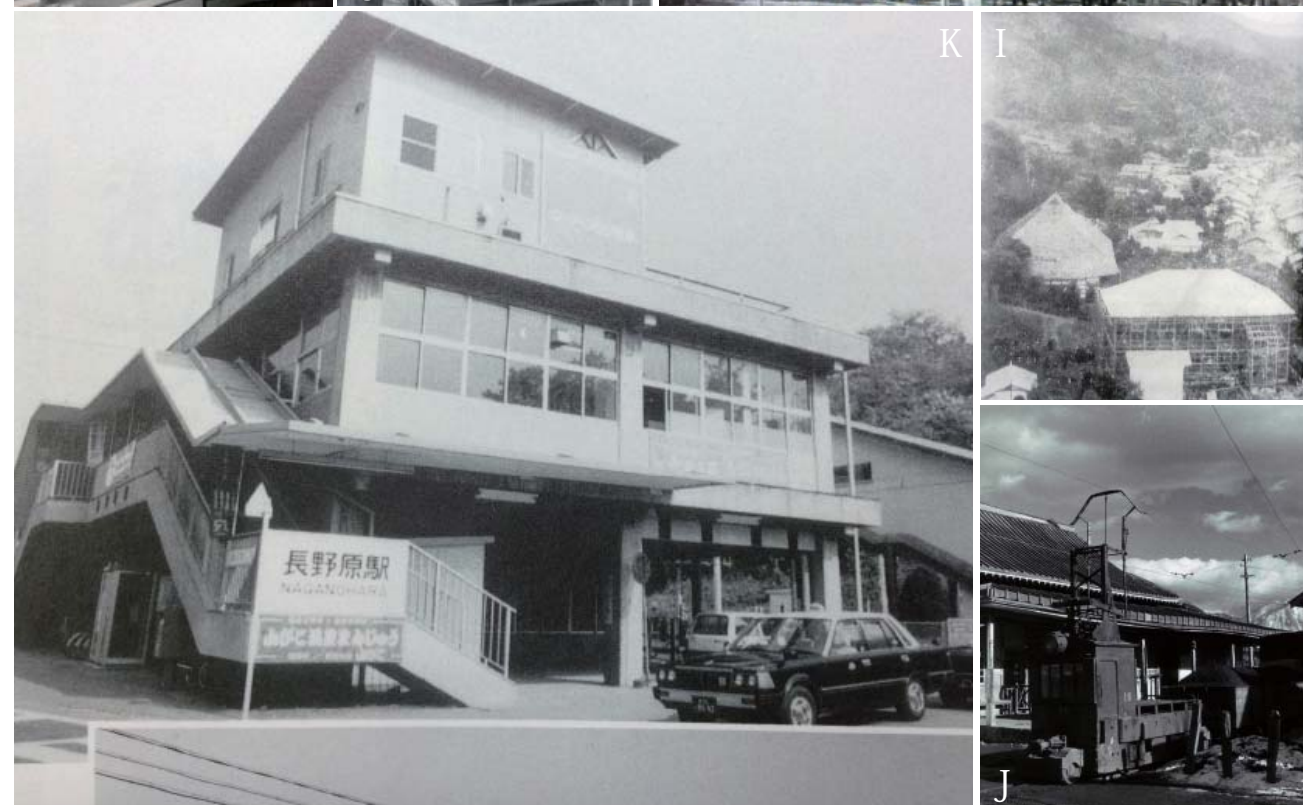
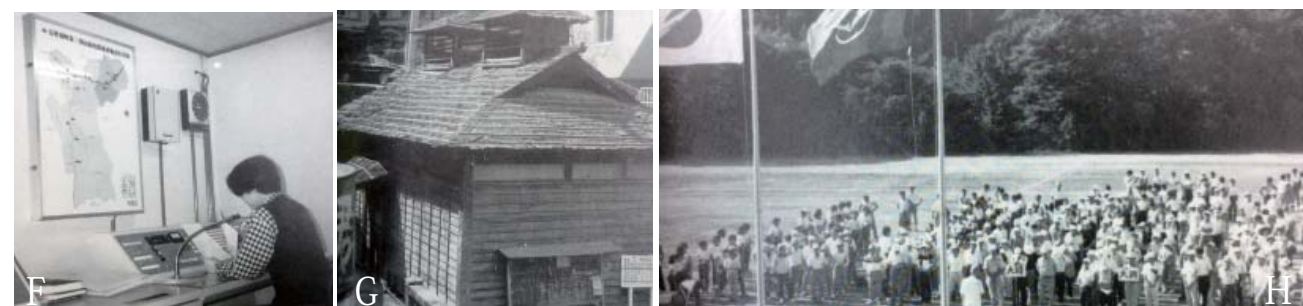
過去の歴史を尊び、未来の新

初代町長

さくらい でんざぶろう
初代 櫻井 傳三郎
(明治 22 年 5 月 15 日～明治 29 年 2 月 28 日)

初代議長

はぎわら と き い ち
初代 萩原 登喜一
(昭和 21 年 10 月 1 日～昭和 22 年 4 月 30 日)



F	防災行政無線	(S61)
G	旧王湯	(S41)
H	町民スポーツ大会	(S59)
I	町役場一望	(S 4)
J	北軽井沢駅舎	(T15)
K	長野原駅	(S46)
L	ダム水没予定地区	(S44)
M	だんご相撲	(S60)

変わるものと変わらないもの、どちらも

しい町づくりへと繋げていく to create in future.

町長

はぎわら ち か お
48代 萩原 睦男 (現)
(平成 26 年 4 月～現在)

議長

お お は が す す む
34代 大羽賀 進 (現)
(平成 26 年 5 月～現在)



F	防災行政無線	(H27) ※
G	新王湯	(H27) ※
H	町民スポーツ大会	(H26) ※
I	町役場一望	(H27) ※
J	北軽井沢駅舎	(H27) ※
K	長野原駅	(H27) ※
L	ダム水没予定地区	(H27) ※
M	だんご相撲	(H26) ※

※注) 写真を撮影した年代表記となっています

継承し、新たなまちづくりへと踏み出します。

人口密度

平成 26 年度 10 月 1 日調べ

1 km² 当たり

4 2 . 1 人

火災

平成 26 年度 10 月 1 日調べ

3 ヶ月に

1 . 2 3 件

総数 5 件

死亡

平成 27 年度 4 月 1 日調べ

1 ヶ月に

5 . 7 8 人

1 年間で 6 8 名

交通事故 死亡者数

平成 26 年度 3 月 31 日調べ

過去 5 年間 3 人

平成 22 年度～平成 26 年度まで

世帯人口

平成 26 年度 10 月 1 日調べ

1 世帯当たり

2 . 5 1 人

消防団員

平成 26 年度 3 月 31 日調べ

住民

3 7 . 2 人に 1 人

団員 1 5 9 人

救急車出動数

平成 26 年度 3 月 31 日調べ

1 日に

1 . 1 5 件

発生件数 4 2 1 件

交通事故

平成 26 年度 3 月 31 日調べ

2 週間に

1 . 0 3 件

発生件数 2 5 件

町職員

平成 26 年度 3 月 31 日調べ

住民

5 7 . 4 人に 1 人

職員 1 0 3 人

出生

平成 27 年度 4 月 1 日調べ

1 ヶ月に 2 . 4 6 人

1 年間で 2 9 名

転出

平成 27 年度 4 月 1 日調べ

2 4 8 人

異動日基準による

転入

平成 27 年度 4 月 1 日調べ

2 1 7 人

異動日基準による

統計



長野原町長